

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまには、輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より町政の運営には多大なるご協力、ご尽力を賜り、この場をお借りしまして心から感謝申し上げます。

■合併5周年を迎えて

昨年の3月に、当町は合併5周年を迎えました。これを記念しまして、町では記念式典と中泊町ふるさとイメーリアップ大使の任命を行いました。すでにご存じかとは思いますが、大使に任命いたしましたのは、シンガーソングライターの上寛さん、司会業で有名なタレントの横山ひできさん、金多豆蔵人形芝居の3代目主宰者であります木村巖さんの3人です。いずれも、町のPRを行っていた方々でございます。12月4日には、東北新幹線全線開業という、青森県や当町にとって絶好のチャンスが訪れています。ふるさとイメーリアップ大使のお三方には、大いに町をPRしていただき、当町の観光振興に一役買っていたいただきたいと思います。

■夏の猛暑の影響

このような記念すべき年でありましたが、農家の皆さまにとっては大変な年だったかと思えます。昨年のコメの作況指数が、東北農政局の発表では97のやや不良ということで確定いたしました。当町におきましては、この数字以上に不作であった感があります。戸別所得補償制度による交付金が支給されるということで一安心しておりますが、町といたしましても、農家の皆さまが安心して暮らせるよう、状況に応じて対処して参りたいと考えております。

また、9月の豪雨による災害では、小泊地域の一部におきまして冠水などの被害や、国道339号線の寸断な



新たなまちづくりのスタートに

中泊町長 小野 俊 逸

年頭の
あいさつ

ど、大きな爪あとを残しました。被害に遭われました皆さまには改めてお見舞い申し上げます。

■宝富士関の誕生

一方、町にとって明るいニュースもありました。出羽の花関、朝乃湊関以来の関取の誕生です。今年の9月場所と連続で勝ち越しを決め、1月場所ではさらに2枚上げて、十両東の5枚目になっています。今後の活躍を一層期待しますとともに、町民の皆さまにもぜひ宝富士関へ応援をよろしくお願いしたいと思います。

■地域づくりの機運盛り上がる

また昨年は、地域づくりの機運がにわかに盛り上がりました。4月の「起きて夢見る会」という地域づくり団体設立を契機に、既存の団体なども含め、さまざまな場所で特色あるイベント、催しを行っていただきました。11月には、バルナスで「地域づくり団体全国交流研究会青森大会」の分科会も当町で開催され、本当に地域づくりの気運が盛り上がった年でありました。

まちづくりは、住民である皆さまの手によって行われることが、本来の姿であると考えております。このような盛り上がりは、町にとりまして非常にうれしいことで、今後也大いにがんばっていただくとともに、私たち行政も過度に干渉しないように気をつけながら、サポートして参りたいと考えております。

■次の節目に向けて

合併5周年の節目が過ぎ、町は次の節目に向かって歩み始めました。「大地の恵と海の幸 心ひとつに希望の町」をスローガンに掲げて、将来に希望が持てるまちづくりを進めて参りましたが、これからはその仕上げであると思っております。町民の皆さまには、これまで同様のご支援・ご協力をお願いしたいと思います。

1月は例年吹雪が多く、寒さが厳しい時節であります。皆さまには、どうぞご自愛いただきますとともに、本年が希望に満ちた年でありますようお祈り申し上げます。年頭に当たってのごあいさついたします。

新年明けましておめでとうございます。平成23年の年頭にあたり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。皆さまには、平素から議会に對しまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本年も決意を新たに、中泊町の振興・発展に向け、さらに精進して参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■昨年を振り返り

さて、昨年一年間を振り返りますと、政治・経済ともに激動の年でありました。鳩山内閣誕生から9か月足らずで新内閣発足、中国・ロシアとの領土問題、高い失業率、デフレの深刻化等々、残念ながら予期せぬことがたくさん起こり、日本だけでなく、世界全体が大きく揺れ動いた年でありました。

また、当町においても天候不順による稲作収量の減収、漁獲量の減少など農家・漁業関係者にとってはきびしい一年であったと思います。今年は、昨年よりはよい年でありたいと願っています。

■地方にできることは地方に

昨年11月、東京で「第54回町村議会議長全国大会」が開催されました。地方自治体や議会が抱える重要問題を提起し、地域主権改革の実現、町村税財源の充実強化、議会の機能強化などを、国に對して強く要請しました。

地方が明るい未来を展開していくためにも、国と地方の双方が力を出し合い、支えあつていくことが重要であり、国は国家存立及び国家基本戦略に専念し、地方のことは地方に任せるべきであります。まさに分権型社会の実現が望まれます。



地域主権社会に向けた議員の役割

中泊町議会議長 野上 憲 幸

年頭の
あいさつ

■議員の役割痛感して

景気低迷、少子高齢化、複雑多様化する社会情勢の中で、われわれ議会議員の果たすべき役割と責任は重く、重要なものとなるでしょう。

こうした状況をふまえ、平成22年中泊町議会第4回定例会で、平成22年度から平成27年度までの6か年計画を策定した「中泊町過疎地域自立促進計画」を可決しました。

われわれ議員も住民の代表として何が必要かを的確に判断し、執行機関と充分な意思疎通を図り、議会の機能を最大限に発揮するよう、今年も全力を尽くす所存でございます。

どうか今年も、さらなる中泊町発展に向けて、町政に對しご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、よりよい一年となりますようご祈念申し上げます。新春のごあいさつといたします。

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

中泊町教育委員会委員長	古川 政昭	中泊町固定資産評価委員会審査委員	阿部 鐵雄
中泊町教育委員会教育長	加藤 久宜	中泊町農業委員会会長	松館 和弘
中泊町選挙管理委員会委員長	工藤 萬藏	中泊町消防団団長	成田 勝蔵
中泊町代表監査委員	葛西 昭文		